

## 第1回高田地区高等学校(仮称)整備検討委員会 会議録

日 時 平成18年4月27日13:30~

場 所 岩手県立高田高等学校 小会議室

### 1 開会

進行(佐藤猛夫) 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございました。ただいまより第1回高田地区高等学校(仮称)整備検討委員会を始めさせていただきます。

### 2 岩手県教育委員会挨拶

高校改革担当課長という名前になりました藤原忠雄と申します。どうぞよろしく申し上げます。

まず第1回高田地区高等学校、これは仮称でございます。その整備検討委員会の開催に当たり一言ご挨拶申し上げます。今日お集まりの委員の皆様には何かとお忙しいなかご出席をいただきましてまことにありがとうございます。日頃本県高校教育の推進につきましてはご支援ご協力いただいておりますことをこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、昨年7月19日に多くの県民の皆様よりいただきましたご意見を基に県立高等学校新整備計画、後期計画の策定ができてその計画に沿って現在策定が取りまとめられ新しい高校の整備再編に努めているところでございます。この高田地区の再編につきましては、前期計画からの課題でございましたが、水産教育は陸前高田市でと地元の熱意によりまして高田高校との統合のはこびとなる状況です。この件に対しましては地元の皆様の水産教育の熱意に敬意を表するものでございます。さてこの高田高校は昭和5年高田実科高等女学校として開校以来76年を数える伝統と歴史を有する気仙地区の核をなす学校でございます。文武両道の教育方針のもと卒業生も18,000名を数えるに至っているところです。

広田水産高校は、それから10年後の昭和15年広田村立水産学校として開校以来60有余年にわたりまして、沿岸南部における水産教育と家庭教育の充実を担い、6000名を越える有為な人材を輩出しているところです。また特にも地元と密着した生徒の研究が大きな成果を挙げ、全国水産高等学校生徒研究発表大会では最優秀賞を6年連続して受賞するという快挙をあげていることは皆さんご存知のとおりでありあります。さてこの度の両校の統合計画にあたりましては、今お話し申し上げました両校の伝統を絶やすことなく、新しい学校がより一層充実発展できますよう、今後とも皆様方の継続したお力沿いをお願い申し上げます。

本日の会議が活発かつ建設的協議がなされ、かつ統合に向け一歩踏みだされることを祈念して挨拶いたします。本日はどうぞよろしく申し上げます。

### 3 委員の委嘱及び紹介

熊谷正樹高校改革担当指導主事から 名簿に従い氏名を読み上げて委員を紹介し、これをもって委嘱に代える。

遠藤敏男 様、清水幸男様、黄川田純一様の3名が欠席された。

#### 4 委員長及び副委員長の選出

進行 いかがでしたらよろしいでしょうか。

伊藤委員 事務局案があれば提案願いたい。

進行 よろしいでしょうか。事務局案を提出します。委員長に高田高等学校長 戸羽 茂様、副委員長に広水産高等学校長 藤田岩夫様をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

一同賛成

進行 これで進めてまいります。協議については委員長をお願いします。

#### 5 協議

委員長 委員長を仰せつかりましたので、これから皆さんの意見を伺いながらスムーズに進行していきたいと思いますのでどうぞよろしくをお願いします。それでは早速協議に入りたいと思います。

##### (1) 整備検討委員会設置運営要綱(案)について

委員長 事務局から提案願います。

事務局 それでは2ページをお開きください。高田地区高等学校(仮称)整備検討委員会運営要綱、全部は読み上げないでポイントのみ説明いたします。

組織 第3 検討委員会は、関係する両高等学校により組織する。2 検討委員会に小委員会を置く。3 小委員会は、検討委員会の命を受けて、統合改編業務及びカリキュラム開発業務等について検討する。 職の設置 第6であります。検討委員会及び小委員会に次の職を置く。 委員長 1名、 副委員長 1名、2 委員長及び副委員長は、委員の互選とする。3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。あとはそのとおりであります。附則としてこの要綱は承認をいただければ今日の27日から施行することになります。以上提案申し上げます。

委員長 この要綱案についていかがでしょうか。

他の地区もこのような内容ですか。

課長 そうです。

委員長 この案でよろしいでしょうか。

一同賛成

委員長 ありがとうございます。それでは今後このとおりの要綱で進めたいと思います、

##### (2) 小委員会構成(案)について事務局提案願います。

事務局 3ページをお開きください。さきほどの設置要綱にありましたように統合改編業務委員会とカリキュラム開発小委員会の二つの小委員会を設定したいと思います。4ページにおきまして構成の案であります。 は統合改編業務小委員会構成の案であります。両校関係者をお願いしたいと思います。統合改編業務小委員会は委員長に高田高校副校長。 5ページはカリキュラム開発小委員会案です。両校の主に主任の先生方を配置しております。

委員長は広田水産高校副校長、検討項目はそれぞれ下に掲げております。以上提案いたします。

委員長 我々の整備検討委員会の下に二つの小委員会を設けられて具体的な施策について検討いただくということです。それらの検討を受けて新たに整備検討委員会の皆様科方にお計りして最終的な決定について検討いただくという組織になるもようです。

この小委員会の運営につきましていかがでしょうか。よろしいでしょうか  
一同賛成

委員長 ありがとうございます。それではこのとおりお願いしたいと思います。

(3) について事務局提案願います。

事務局 小委員会の検討計画について6ページをお開きください。各小委員会検討計画は(4)の統合形態とも関係するわけでありましてけれども平成20年開校すると想定の際に18年度、19年度それぞれこの案のとおり小委員会で検討していきたいと考えております。何か足りない部分がありましたらご指摘願います。

委員長 二つの小委員会ということで、統合改編業務小委員会で校名、校旗、校章ほかさまざまな組織等については小委員会で検討する。カリキュラム開発小委員会は教育課程、あるいは校則、あるいは生徒会等々の細かいルールについて検討する。それを受けて整備検討委員会で最終的な結論を出す、こういう流れになるものと思います。小委員会に付託する小委員会で検討してもらいたい事項についていろいろでおります。これらの中身でよろしいでしょうか。何かございませんか。

一同賛成

委員長 ありがとうございます。

それではこのとおり計画を進めていただきたいと思います。

(4) について事務局提案、説明してください。

事務局 それでは(4)の統合形態案について、3つの案を提案しまして委員の皆様のご意見を承りたいと思います。

第1案 20年度に広田水産高校(水産技術科・家政科)と高田高校(普通科・情報処理科)は高田地区高等学校(仮称)となり、広田水産高校(水産技術科・家政科)の在校生は高田地区高等学校(仮称)に移動する。よって広田水産高校(水産技術科・家政科)と高田高校(普通科・情報処理科)の18年度・19年度入学生は高田地区高等学校(仮称)で卒業、これが第1案です。

第2案 20年度の学年が卒業するまで広田水産高校を存続させる。すなわち、広田水産高校(水産技術科・家政科)の18年度入学生は広田水産高校で卒業し、広田水産高校(水産技術科・家政科)の19年度入学生と高田高校(普通科・情報処理科)の18年度・19年度入学生は高田地区高校(仮称)で卒業するという案であります。

第3案 21年度最後の学年が卒業するまで広田水産高校を存続させる。すなわち広

田水産高校（水産技術科・家政科）の18・19年度入学生は広田水産高校で卒業する。高田高校（普通科・情報処理科）の18・19年度入学生は高田地区高等学校（仮称）で卒業する。このように3つの案を提案します。

課長 県の教育委員会の立場として特にどうしていただきたいという事はありません。各地区でさまざまな整備検討を進め、あるいは統合について本県においてさまざまな地域のご意見をいただきながら様々なパターンがございますので、それについて説明させていただきます。

第1案 分かりやすい統合となっております。広田水産高校と高田高校、統合した校名はこれから確認あるいは何という名前になるのか協議になると思います。いずれ校舎についてはこの校舎になると思いますが、こちらに20年に統合した段階の入学生はもちろんこちらで募集しますからこちらの生徒ですけれども、その時点で入っている在校生も併せてこちらの学校で学び、そして水産等の実習には施設が整っている広田水産高校の実習施設を使うという形になるのがこの案かなと思います。

第2案はいろいろなパターンがあり保留します。

第3案 このような事例は、藤沢高校と千厩高校の場合に当たると思います。この春この状態が生まれました。すなわち、この春から藤沢高校の募集を停止となりまして、千厩高校に一本化して入る。これをもって統合ということになる。ただし、現在藤沢高校に入学している2～3年生は千厩高校に通わずに、藤沢高校という学校を残しながら卒業生がすべて出るまでの2年間、今年2、3年生が残っています。来年度は3年生が残ります。ですから今年、来年の2年間は校長先生を置き、閉校式を行って終わりにしようという形態、これも地元との協議でそのように話しが進みました。

さて第2案のパターンですがいろいろとございます。いまここに文言に書いているのは18年度入学生は広田水産高校で卒業と書いてございます。これはどういう意味かということ、今年すでに入っている生徒は学校名が変わるということと等一切伝えずに募集しておりますので、入学した学校で卒業するのが前提ですので、18年度に入学した生徒は広田水産高校の名前で卒業する。しかし、19年度今度募集する生徒からは新しい高校名で卒業する場合があります。あるいは卒業しますという前提で募集して校舎もこちらで最後学びますよということであれば、そのように図ることもできますということです。あるいはまた地域によっては現在すでに入学している生徒についても20年度の統合時点で新しい高校名になってしまうというものも在校生の同意が得られれば行われた例もございます。この例は久慈地区で行われた統合の例で3校が統合になりました。久慈水産、久慈商業、久慈農林高校です。統合時点で久慈東高校という名前になりましていっせいにその段階で在校生も皆久慈東高校という名になり、分校舎という名に、商業校舎、水産校舎という形で同じ学校でありながら3つの場所に分かれて授業を行いました。3年生だけになった段階で一つの校舎に集まったというような形態になった例があります。また、身近な例ではこの4月に発足しました大東高校と大原商業高校との例がそうです。この4月に統合しまして、学校名は一斉に大東高校になりました。校名が一つ、ただあそこ

の場合は事情がありまして産業教育施設を急遽つくることになりまして、商業棟がまだ完成していないので、商業に関する授業は、現在の大東高校の施設設備では不十分だということで、大原商業高校の施設を使うということで、分教室、分校舎という形で大原商業高校を1年使い、2～3年生が活動し、来年3年生だけになった段階で大東高校に移るという形で、この第2案につきましては少し変化があり、1案3案 その折衷案というのが2案。いずれここにあるとおり広田水産高校で募集している現在の在校生については、新校名で卒業していくのかどうかは同意が必要です。また統合した段階で新校名の学校になってその分校舎という形で今の広田水産高校で学ぶのがよいか、それが1年になるか2年になるかは、教育的観点から審議することになります。

委員長 高田高校についても書いてあります。高田高校の情報処理科に在学する18,19年度入学生は高田高校でそのまま卒業するということですね。高田高校を除く家政科と水産技術科がどうなるか1案2案3案で違うということでしょう。

戸羽委員 確認ですが、大船渡にも家政科ができるわけですが、この考えですと広田水産高校の水産技術科、家政科がそのままここに統合することになるのか、向こうには関係ないということですね。

課長 在校生についてはそのとおりです。

在校生が大船渡に行くという考えでなく、高田高校と統合してよろしければその考えが自然かなと思います。

戸羽委員 了解しました。

委員長 3つの案が出されていますがどうでしょうか。

戸羽委員 分かったようで分からない。広田水産高校の場合、19年度入学生は広田水産高校を卒業するという段階とならない場合がありますね。19年度入学生が3年生の場合、高田高校に移動して新しい学校名で卒業する場合と広田水産高校で卒業するか二つの場合がありますね。

課長 今の1年生については皆さんの同意が得られるのであれば新しい学校名の卒業証書で卒業するということも可能です。こういう例もございます。皆さんがそれでよいというのなら教育的観点で特にこだわりません。例えば一関農業高校と一関二高の統合の場合も、入学するときには一関農業高校で、卒業するときは新しい学校一関二高で卒業します。決まった校名の農業科で卒業する。結果的に一関二高という名前になりましたので一関二高農業科で卒業する。

戸羽委員 校名が変わるかどうかということですね。

課長 広田水産高校の現在の1年生が同意するか、同意が得られればそれでいい。それから今度募集する生徒については、まだ時間がありますから7月くらいまでの段階でそのような文言を盛り込んで募集することになります。

戸羽委員 基本はそこですね。

委員長 その辺子どもたちがどういうふうに受け取るかです。今の1年生ですか、来年入学してくる子どもたちにとってどうなのかという、その辺どんなものでしょうか。

戸羽委員 生徒のためにどちらがよいかということですね。

藤田副委員長 消去法で考えますと第3案については、前の学校、花巻農業高校と一緒にあった北上農業高校をみてきました。結局は最終年度閉校の年は3年生だけ、50数名がおりましたけれども、ほとんど団体競技とか部活動ができなかった。それで野球部は苦肉の策で新しくできた北上翔南高校と合同チームで出場した。いろいろやりましたがやはりこの第3案というのは、学校名を残すという面ではいいかも知れませんが、ただ、生徒にとってはつらいものがあるなという考えです。ですから第3案を選択することは生徒にとって大変困難なことがあります。

戸羽委員 諸々の活動、生徒会活動を含めてより人間的な活動を考慮すれば確かに第3案は19年度入学生にとって最終学年3学年の時に問題となってくると思います。今日ここで決めねばならないのですか。

委員長 いいえ。

課長 そういうのも話題にして

戸羽委員 持ち帰って次の会で検討してもらおうという。

課長 一日体験入学等もありますから、諸般の事情で藤沢高校の場合は、5月に意見を聞く会がありまして、その段階である委員の中から中学生の意向調査を聞いたならば一桁の応募だった。それで早めてはどうかという話がありまして、それで急遽1年早めたということになった事情がございました。その場合に一日体験入学の直後に早めるということが決まったのでちょっと混乱がありました。ですから次回を早めにさせていただいて6月はじめくらい、1ヶ月ないところでどちらにするかを決めていただければ、一日体験入学の時にも入るときはこうだけれども、出るときはこうです。あるいはずっと存続しますよとか、何らかの方向性を示しながら中学3年生の将来、中学校もそうでないとなかなか難しいこともあるかと存じます、今今ということではございませんが、そういったくらいのスケジュールで方向性を審議してもらいたい。

委員長 ほかに統合形態についてのご意見等ございませんか。

清田委員 生徒・保護者の意見を聞くという段階では例えばアンケートをとってもよろしいですか。

課長 形はどれでも、いずれ地元の方々の意向に沿って教育的によろしい、それがよろしいという、この地区では報告だされましたならば尊重しながら県で検討します。さきほども言ったように県としてこれでいい、このようにとかという意向はまったく持っていません。

清田 P T A総会が終わってしまったので、もし保護者の意見を聞くとなると、もう一度、来月中にでも開かねばならないと思います。そういった形でよろしいわけですね。アンケートでもよろしいですし、集会をやって意見を聞くという形でも。

課長 在校生の方については。

清田委員 きちんと。

戸羽委員 県教委については、そういった件については感謝申し上げたいと思います。余裕をもってもらったし、私たちの意見を十分きける時間帯を設けていただいた、内容をもっていたことに感謝申し上げます。ありがとうございます。

委員長 よろしいでしょうか 広田水産の今の1年生、来年度入ってくるだろう中学3年生にとって、保護者を含めてどのような傾向、考え方をもっているかそれが一番基準になると思います。

戸羽委員 まったく広田水産高校の選択ですね。同窓会としては、持ち帰って検討したいと思います。

委員長 どうぞよろしく、それでは(5)について事務局提案願います。

事務局 18年度の年間計画と書きましたけれども、今日の話し合いの基に、この後5月29日に第2回整備検討委員会を開催したいと思っています。そのために諸々小委員会とかまたは同窓会、PTAという形でお話し願ひまして、5月29日にはもう少しキチンとした方向性を決めていただきたいなと思っていますのでよろしく願ひします。2回目の整備検討委員会の結果を踏まえまして、その後必要に応じて小委員会並びに検討チームを開きまして、第3回整備検討委員会がでてくるのではないかとこのように思いますのでよろしく願ひします。

委員長 さきほど課長さんから話しがあったように、今の中学3年生が受験を迎えますので、早い時点で中学生に示す必要があります。3回目以降必要があつて開くこともあるという事務局の説明ですけれども、極力第2回目のところで大きな柱を決めたいとの思いがございします。第2回目までに小委員会を開いていただいて、あるいはアンケート等を調べていただいて2回目に参加いただければありがたいと思っております。よろしく願ひします。この計画につきましてよろしいでしょうか。

一同賛成

委員長 2回目の時間は。

事務局 本日と同じ時間でお願ひしたいと考えております。

委員長 次に(6)その他

事務局 特にありません。

委員長 せっかくの機会ですので整備検討委員会に係わつて皆さん方のザックバランな話しをいただければありがたいです。

及川委員 遅れてきましてすみません。確認ですが説明があつたかもしれません。現在の広田水産と高田高校が一緒になって、新しい名称となるかはこれから話しするわけですが、特に今ある広田水産高校の水産技術科と家政科のことですが、先生方の立場からすればまるっきりカリキュラム、授業の内容が違って大変だと思います。それで、今の県教委の意

向でもって整備検討委員会をやっていますが、1番の心配なのが仮にも統合して何年かたって、更に例えば水産技術科の方に生徒数が少なくなって、毎年応募者が少ない場合、水産技術科は存続できるものなのか。また、そういったことが何年か続いた場合、当然県の方では科の存続ということを検討していくものなのか。ただ、こういう計画というのは、どういう組織であっても明日のことをすぐ今日やるわけではないので、長期の計画にのっかって特にこういった教育問題というのは、ことさらそうだと思うのですけれども、10年先、20年先とかそういったスパンでもって計画があると思います。ですから私たちの方に情報を流してほしいし、現時点のあくまでも仮定の話しですけれども例えば気仙地区だけでなく、県全体を考えれば当然子ども自体が少なくなっているという事実があるので、そういったいろんな学科がなくなるかもしれないという心配があります。そういったことに対して大まかでよいが県の考えを教えてください。

課長 難しい質問でございましてお答えが正確にできないかと前置きさせていただきます。まず、水産科につきましては前期計画の段階で一度審議させていただきました。水産教育については高田市内で高田高校のなかで水産科を設けて進めてほしいという強い要望がございまして、前期計画の段階から県の方針をかえて地元の意向を受ける形で調整させていただいた経緯がございまして、現時点で水産教育のこの先について今現在、統合して新しい学校ができるというこの時点で、云々申し上げる時期ではございません。もう一つ、とはいえ、あえて申しますと学科の再編について今は統合という大きな学校と学校の枠組みを話しをしていますのでこのように多くの方々にご足労願っておいでいただいているわけです。一つの学校になった後の学科をどうするかということについては、ご意見をいただきますけれども見直しをさせていただいております。例えば工業高校のなかでも最近の経済情勢をみますと、土木科がほとんど入ってこない。なぜかといいますと土木科を卒業しても公共事業がこれだけ減ってきておりますので出口がない。就職先がないということで、土木科の希望者が少ないということになれば土木科を他の学科に切り替えるとか、あるいは生徒減に合わせて一科を減らすときに土木科を減らすということは、数年ごとに数年のデータ、これからの見通しををみながら職業に関する学科について毎年毎年見直すということです。

では、水産についてはどうかといいますと、岩手県の長い水産教育のなかで近年例がないということですがけれども水産関係の指導主事を得ました。ここにいる熊谷指導主事です。専攻科の船乗りでした。水産に関する知識、感性は十分持っており、広田水産高校にも勤めたことがあります。ですから、その辺のところは私ども学科再編のプランの中にも十分に生かしながら進めていこうとしているところです。ですからこの先どうなるかということは今の時点で申し上げるべきでもございません。ただ、十分に生の情報を得ながら教育施策の中に取り組むこのような考えです。

戸羽委員 住田高校との合併はここに出てこない。差し支えなければ説明していただきたい。

課長 当初住田高校と三校の統合ということで、案をださせていただきました。それが一つは住田高

校は併設型中高一貫教育を標榜して町ぐるみで運動されていた。そういった中で県の方でも併設の中高一貫教育をどういう形で立ち上げるべきかということで、検討をちょうどやっている最中でした。その中で併設型中高一貫を本県で立ち上げるならば2～3つのパターンがある。住田地区が標榜しているあるいは提案している中山間地域の中高一貫教育併設型が本県で望ましいという方針が出たならば住田高校は統合という枠組みでなくて、併設型中高一貫の学校として進めていこうという回答をさせていただいておりました。そうしている中で新聞報道されておりますけれども、本県においては学級数においては中学校2学級程度、高校は4～8学級程度の併設型中高教育が望ましい方針が出されました。そうしますと住田高校は難しいかなと、あるいは答申のなかでも中山型の併設の中高一貫教育の場合には、むしろ選択肢がせばまるという恐れがあることから、本県で進めるのには望ましくないという意味合いの答申が出されました。その時点で住田高校の中高一貫教育というのはその枠からはずれたと考えています。三校の統合の枠に入ることになったが、もう一つ新整備計画後期計画の中に60名を2年続けて割り込んだ場合には、次の年から1学級減じ1学級募集と統合のテーブルに着いていただきますという案件がございます。今年住田高校は60名を超える生徒数を有しておりますので、20年に統合になるという要件は考えにくい状況が生まれています。ですから今回の統合については両校でまず話しを進めさせていただくという考えです。

委員長 ほかにはよろしいでしょうか。

一同なし

委員長 最後に何かありますか。

課長 本日はありがとうございます。いずれ子どもたちにとってあるいは同窓会、PTAの皆さんにとっても統合というのは大変さびしい思いであるということを重々承知しております。わたしも北海道で生まれ、中学校が廃校となっております。高校もそろそろという形です。子どもたちにとって、こういった形で統合していくのが最もよろしいのか観点で関心をすすめてさせていただきたい。第2案につきましては様々な細かい動き等もあります。場合によってはそれは公的に難しいこともあろうかと思えます。今後お話し合いをさせていただきながら、よりよい形での統合にもっていきたい。よろしくお願ひしたい。

進行 大きな6のその他も終わったということで、貴重なご意見ありがとうございました。以上で第1回高田地区高等学校（仮称）整備検討委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。